PROM，早産とクラミディア・トラコマティス

（分担研究：　新生児の感染症に関する研究）

関　　修一郎*

要　　約

従来示唆されていたクラミディア・トラコマティスとPROM，早産との関係について検討した。15例のPROM，4例の早産，4例の多胎における早産の検討で妊婦子宮頸管内のスワブより全例において抗原は検出されなかった。妊婦のIgG抗体が6例に検出されたが，これは感染の既往を示すものであると思われ，IgM抗体は検出されなかった。また，IgG抗体は新生児に移行しタイターは同価か幾分低めである。移行抗体は1ケ月後には漸減低下する。IgM抗体は検出されなかった。ウイルソン・ミキティ症候群3例において，抗原，抗体いずれも検出されなかった。新生児センター長期入院児28例の抗体検索を行い3例にIgG抗体を認めたが，いずれも母体よりの移行抗体と思われた。

見出し語：　PROM，早産，クラミディア

研　究　方　法

鹿児島市立病院周産期医療センターに昭和62年10月より12月に入院したPROM 15例，早産4例，双胎4例（PROM 1例，早産3例）の母体と出生した新生児を対象とした。妊娠週数は25～35週にわたっている。子宮頸管よりのクラミディア抗原の検索にはダイナボット社のクラミディアザイムを用いた。抗体価の検索には分娩直前の母体（抗原検索と同時），出生直後の新生児，生後1ケ月において，免疫蛍光抗体間接法によりIgG，IgM抗体価を測定した（SRL委託）。

さらに無作為的に新生児センター長期入院児28例において抗体価を測定した。疾患は仮死，BPDなど多岐にわたり測定生後日数は43日より950日にわたっている。

結　　果

全例において抗原は検出されなかった。

母体においてIgG抗体が6例に検出されたが，IgM抗体はいずれにおいても陰性であった。このIgG抗体は新生児に移行するが，生後1ケ月でタイターは漸減する。双胎における移行抗体は双方にほぼ同等に移行する。長期入院児における抗体価は3例で陽性であったがIgM抗体は陰性であった。

検索したなかでウイルソンミキティ症候群が3例ありいずれも抗体陰性であり，抗原は検索できた2例で陰性であった。

考　　察

従来一部で示唆されていたクラミディア・トラコマティスとPROM，早産との関連はこの研究成績からみると希薄であるといわざるをえない。

*　鹿児島市立病院周産期医療センター

我々の施設における正常妊婦のキャリアー率が5％程度であることは，既に61年度に報告しているところである。研究期間中において，当院産科外来で妊娠初期よりフォローし分娩にいたった347例中，約17例のキャリアーがいると思われるが，その中からはPROMが1例発症したのみであり，早産は発症しなかった。また，検索した23例中前述したPROMの1例を除いていずれも母体搬送の症例である。このように関連性が希薄であるということは，すなわちこの微生物がPROM，早産の原因になりえないということではない。悉無率を摘要させる必要はないのである。時としてありうる可能性は残されているわけであり，そうはいうものの積極的な関与はどうもありえない，ということがいえるのである。

IgG抗体が検出されることは，過去の感染の既往を示すものであり，実際IgM抗体は母児のいずれにおいても認めていない。

出生時のIgMが高値を呈するウイルソン・ミキティ症候群3例でいずれも抗体は陰性であった。抗原も2例において陰性であった。この疾患はIgM値が高いためなんらかの子宮内感染の可能性が示唆されているが，まだ病原微生物は特定されていない。この微生物との関連性についていえば，例数は少ないがこれまたあまり関係はなさそうである。

この研究の目的のひとつは，もし必要とあらばデータを産科に還元する必要があるのではないかと思われたからである。つまり，PROM，あるいは早産と積極的に関連があるとすれば妊娠初期あるいは中期においてクラミディア抗原の検索が必要となるからである。61年度に報告したように成熟児における重症の肺炎がありうることは他の幾つかの報告とともに重要なことであるので，少なくとも妊娠後期においては，特に頸管炎のある場合抗原の検索が必要であろう。一般の妊婦健康診査においてルティーンに行うべきか否かは，今後さらに検討しなければならない課題であろうと思われる。

文　献

1) Attenburrow AA, et al.: Chlamydial pneumonia in the low birthweight neonate: Arch Dis Child, **60**:1169, 1985.
2) Heggie AD, et al.: Chlamydia trachomatis Infection in Mothers and Infants: Am J Dis Child, **135507**, 1981.
3) Martin DH, et al.: Prematurity and Perinatal Mortality in Pregnancies Complicated by Maternal Chlamydia trachomatis Infections: JAMA, **247**:1585, 1982.

	症例数	ｸﾗﾐﾃﾞｨｱｻﾞｲﾑ 陽性数	IgG抗体 陽性数	IgM抗体 陽性数
PROM	15	0	4	0
早　産	4	0	0	0
多胎早産 (1例 PROM)	4	0	2	0

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約

従来示唆されていたクラミディア・トラコマティスと PROM 早産との関係について検討した。15 例の PROM,4 例の早産,4 例の多胎における早産の検討で妊婦子宮頸管内のスワブより全例において抗原は検出されなかった。妊婦の IgG 抗体が 6 例に検出されたが,これは感染の既往を示すものであると思われ,IgM 抗体は検出されなかった。また,IgG 抗体は新生児に移行しタイターは同価か幾分低めである。移行抗体は 1 ケ月後には漸減低下する。IgM 抗体は検出されなかった。ウィルソン・ミキティ症候群 3 例において,抗原,抗体いずれも検出されなかった。新生児センター長期入院児 28 例の抗体検索を行い 3 例に IgG 抗体を認めたが,いずれも母体よりの移行抗体と思われた。